

科目	都市システム工学 (Civil System Engineering)		
担当教員	橋本 渉一		
対象学年等	都市工学科・3年・前期・必修・1単位(学修単位I)		
学習・教育目標	工学複合プログラム	-	JABEE基準I(1)
授業の概要と方針	有史以来発展を遂げてきた市民工学(Civil Engineering)とは、軍事以外のすべての工学を総称した概念である。この中から主として社会基盤を整備する近代の土木工学が発展し、現代では都市形成のための社会工学の概念まで広く含めて、都市工学と称している。本教科では前半に、この都市工学全般の概念を広く習得し、後半には主として神戸市を例として都市計画全般を習得する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	土木工学の発祥から現代都市工学までの技術的發展を説明できる。		土木工学から現代都市工学までの技術的發展を説明できるか、中間試験で評価する。
2	社会資本形成のための土木事業の役割について説明できる。		社会資本形成と土木事業の役割について説明できるか、レポートおよび中間試験で評価する。
3	各種土木施設の基本的機能について説明できる。		各種土木施設の基本的機能について説明できるか、レポートおよび中間試験で評価する。
4	都市の形成と歴史的発展について説明できる。		都市の形成と歴史的発展について説明できるか、定期試験で評価する。
5	都市と土地利用の関係について説明できる。		都市と土地利用の関係について説明できるか、レポートおよび定期試験で評価する。
6	都市の発展と都市計画の役割について説明できる。		都市の発展と都市計画の役割について説明できるか、レポートおよび定期試験で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80%、レポート20%として評価する。到達目標1～6に対して、演習・レポートなどの学習成績20%、中間試験、定期試験80%の割合で総合評価する。		
テキスト	「土木工学概論[改訂版]」、石井一郎、鹿島出版会 配布プリント		
参考書	「土木工学概論」、黒田勝彦・和田安彦、共立出版 「新都市計画総論」、佐藤圭二・杉野尚夫、鹿島出版会 「最新都市計画[第3版]」、石井一郎他、森北出版		
関連科目	地理、測量、構造力学、水理学、コンクリート工学		
履修上の注意事項	1年生の地理、2年生までの都市工学科専門科目を理解、修得していることが前提となる。3年生専門科目の、構造力学、水理学、土質力学、コンクリート工学、測量学等の知識を幅広く修得する必要がある。		

